

KSKQ

ゆうとおん

通信

NO.122

2021年11月号

郵便振り込み口座 00910-9-106532

編集人 (社福) ゆうとおん通信 編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4



津田 健一郎 (つだ けんいちろう)

1990年11月2日生まれ。

府立八尾翠翔高校を卒業後、交野自立センターに入所。

2011年4月から、ゆうとおんへ。

グループホームで暮らしながら、はーと軽作業班で、日々、作業に取り組んでいる。

ゆうとおんはーと軽作業班 津田健一郎さん。

はーとでのお仕事は？

おとめちゃんの金刺や本体入れをしている。

むずかしいことはありませんか？

ない。きっちりできています。

お仕事は楽しい？

飽きてくる。もつといろんなことをしたい。

みかんちぎりしたい。復活させて欲しい。

好きなことは？

あー、特にない。いや、ゲーム。前はテレビをよく見ていた。

ここで、生きる 人シリーズ No.19

どんなゲームをする？

対戦系のゲーム。

どれくらいの時間する？

2時間くらい。

将来の夢とかある？

ユーチューバーになって、お金を稼ぎたい。

そのお金でピアノの楽譜やゲームを買いたい。

ピアノ？

前は弾いてた。たまに弾いてもいいかも。

作業所での生活は？

仕事ばかりで楽しくない。散歩とかドライブ

とかしたい。でも、コロナ怖いし。

外出できたら、滝行したい。

滝行？

滝行するとパワーアップするって言うって

(YouTubeで見た)。

どこの滝に行きたいですか？

箕面の滝。

この一年、緊急事態宣言のため、外出もままならない状況だった。感染者数が低下している状況のうちに、外出などの機会を持ちたいと思う。
(聞き手・越智邦行)

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円

「ピープルファースト大阪学習会について」

9月25日、ピープルファースト大阪会議にて、ゆうとおんが主体となり、「虐待」について学習会を開催しました。毎月、行われているピープルファースト大阪の集まりですが、コロナウィルス感染拡大の影響により、リモートでの開催が長く続いています。ゆうとおん以外の人と接する絶好の機会なのに、直接お互いの顔を見ることができないもどかしさを当事者のみなさんも感じていると思います。また、リモート会議となつてからはピープルファースト大阪会議に参加される団体も少なくなり、今回の学習会はどうも他団体のみなさんが参加されるのか前日まで予想もつかず、支援者側としては不安な気持ちを抱えながらの準備期間でした。しかし、みんなで決める会のみなさんは、不安な様子をほとんど見せずに、本番に向けて着々と練習を重ね、自信をつけて行かれる姿、とても頼もしく感じました。いよいよ本番当日、当事者のみなさんは、ゆうとおんそれぞれの事業所パソコン前で待機し、緊張の面持ちで参加される方々を待ちました。開始時間の13時30分になると、予想した以上に様々な団体の方の顔が映し出されていました。

学習会の内容が「虐待」ということもあり、みんなで決める会からは4名の方が自身の虐待体験を発表してくださいました。また、参加された当事者の方々が「自分も虐待されたことがある」と体験談を話してくださいました。過去の辛い体験を話すことは、本当に容易ではないと思います。体験談を話しながら苦しそうな表情をされ、聞いているだけで心が苦しくなる内容でした。普段の笑顔からは想像できない体験に驚きと憤りを感じずにはいられませんでした。



一言に「虐待」と聞いても、どこからどこまでが虐待にあたるのか、自分自身、未だに悩まされる日々です。同じ声掛けでも、メンバーさん一人ひとり感じ方も違うと思いますし、毎日「あの声かけで良かったのか？」と思い悩む日々です。今回の学習会で、改めて「虐待」について考え、自分自身と向き合う良い機会をいただけたことに感謝しています。

緊急事態宣言が明けましたが、コロナウィルスはまだまだ猛威を振るっている世の中です。みんなで決める会も、早く集まって話したい思いが強いですが、「Withコロナ」を前向きにとらえ、どのような形で当事者活動ができるのか、何か新しいことはできないか、たくさん話し合いながら活動できればと思っています。(支援者:松岡知子)

代表 あいさつ 徳山 大海さん

みなさん、こんにちは。これから、ゆうとおんみなで決める会で虐待についての学習会をします。みなで決める会では、これまで、「虐待をなくそう！」の発表会や、



した。僕は紙切りやゲンタン運び、配達の手はときは自分でも、てきぱきできますが、波が回転が遅くなっていました。社長や社長の言われたり、どなられたりしました。息子さんは30代後



さん か かんそう
参加されたみなさんからの感想です

小林さん：自分の言いたいことを言えた。

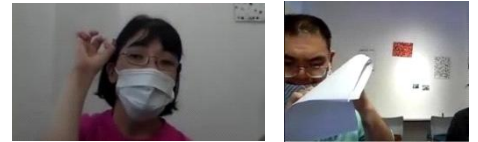


青山さん：はーとのパソコンでピープルファースト大阪のリ

モート会議で虐待の発表会をしてよかったです。コロナがおさまったら集まりたいです。

中西さん：楽しかった。また、やりたいです。2022年、来年は、ピープルファースト北海道大会に行きたいです！

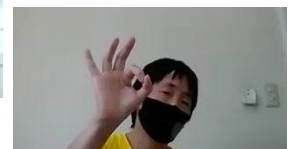
寺田さん：リモートやったけど、できてよかった。徳山さん



の体験は、とても印象に残っている。自分も同じような経験があるから…。いろんな人の経験が聞けてよかった。

松田さん：この虐待について発表する前まで小さな声でした。しかし、みんなに大きな声で発表するように言われてプレッシャーだったけど、大きな声で発表することができた。うれしかったです。自分の思いも話せてよかった。

岩井さん：虐待を絶対になくしたい！それは大きい目標やったので、楽しかったし、いい勉強になった。他の人の意見も聞けて、あらためて『虐待』のテーマでよかったと思う。家でも練習して、どもったり、かんだりしないように、ゆっくりと話せてよかった。準備の段階でみんなが集まって話したかったけど、リモートしかできない。みんなが集まりたい気持ちはあるけど、こんな時期やからリモートでも機会があれば、またしたい。みんなできめる会の一員として全力を尽くして、財産になれるようにがんばりたい！！



宮田さん：みんなで、できてよかった。他の人の意見や体験を聞いて、かわいそうな気持ちにもなったし、つらかったと思ったり、勉強になった。リモートでうまくいか不安もあったけど、練習するにつれ、次第に不安も減り、うまくできた。またやりたい。できたらリモートでなく、集まってやりたい。顔を見て気持ちが伝わるから。月に一度のリモートでいいので、これからもみんなできめる会を続けたい。

徳山さん：初めての学習会に参加して、いろいろな人の虐待の話が聞けよかった。最初は緊張したけど、うまく自分の体験談を話せてよかった。



西矢さん：緊張せず発表できたのがうれしい。



てん じゅん び はじ さをい展の準備を始めました！

コロナ禍でたいへんな状況が続いていますが、感染予防に努めながら、今年も作品展を開催いたします。緊急事態宣言期間中のさをり班は、在宅利用の方も多く、織り作業もなかなか進まない状況もありましたが、10月よりエンジン全開！

みんなが心を込めて織った反物を製品にしていけるのが私たち職員の仕事ですが、今回は、メンバーが作った作品も展示できたらいいなと思っています。多くの方々に手に取っていただけるよう、作品をたくさん準備しておりますので、ぜひ、ご覧いただけましたら幸いです！

ポーチ、バック、マフラーなど、秋冬アイテムをたくさん展示販売いたします。



※Instagramにも、できあがった作品を随時紹介していきますので、のぞいてみてください。
(やむを得ず展示スケジュールの変更・中止などする可能性もありますので、その場合は、ホームページまたはSNSなどでお知らせします。)

<はーと>



<ほーぷ>



Instagram

こちらから→



うえーぶ かみすき班



今年もカレンダー販売の時期がやってきました。

すかしなし



A4サイズ
かきこみでき
るよ

には部数やデザインを決定し、作成

に取り掛かります。

今は作業も大詰めを迎え、かみすき

班メンバーさん、職員、ゆうとおんうえーぶ全体で作業に取り組んでいます。

1冊 1000 えん (2種類からおえらびいただけます)

うえーぶ くっきー班

こむぎアレルギーのかたにも、たべてもらえる

クッキーが誕生しました。

ココアとあわせたサクサク食感を

ぜひ一度おためしあれ！



かみすき班では、10月のカレンダー

発売に向け、1年を通してのかみすき

作業、原画作成を行っています。夏頃



すかしあり

皆でがんばって作
りました！よろし
くおねがいします



米粉のスノーボール 6個入り 200 えん

米粉・アーモンドプードル・バター・ココア・
トッピングシュガー

ぜんたいけんしゅう
全体研修

ねん がつ にち り も ー と けんしゅう
2021年8月17日 (リモート研修)

せいしんしょうがい、じへいしょうすぺくとらむ、はったつしょうがいへのしえんなど。

こだわり・いぞんけいこう・きょうはくせいしょうがいなどについて

こうし いりょうほうじん しょういけいかい
講師：医療法人 小憩会 さわらび診療所 精神科医 いながきりょうすけし
稲垣 亮介氏

いながきせんせい だいにだん ぜんたいけんしゅう
稲垣先生、第二弾となる全体研修でした。質問、事例を通して、稲垣先生の視点からお話をいただきました。研修内容を少しご紹介したいとおもいます。

しつもん 質問

Q1. るーていんや、ほんにんなか げんどう わたしたち
ルーティンや、本人の中でしないといけない言動など私たちが「こだわり」と呼んでいる行動について、いながきせんせい
稲垣先生はどのような風に捉えていますか？

Q2. せいしんかい せんせい
なぜ精神科医の先生になったのですか？

Q3. せんせい かんじるふくし たいするいわかん ぎもん おもう
先生が感じる福祉に対する違和感や疑問に思うことなどありますか？

Q4. はったつしょうがい かた うつ ひと おおい
発達障害の方で、鬱になる人が多いのはなぜですか？

Q5. つういん ふくやく いぞん
通院や服薬への依存について

Q6. いし ふちょう うったえたかんじや さい たいいん くすり かげん ほんにん うったえ ほんだん
医師として不調を訴えた患者がきた際に、他医院との薬の加減と本人の訴えをどのように判断していくのか？

また、つういん ふくやく いぞん けーす ばあい われわれ いりょうれんけい こころがけて
また、通院や服薬への依存があるケースの場合、我々はどのような医療連携を心掛けていくべきなのか？



さんか
参加された

かた かんそう
方の感想

ほんき つたわる ひと ひと かならずつたわる しんじやって
・「本気は伝わる」人と人です。必ず伝わりと信じやっています。

「嫌われることを恐れずに立ち向かえる人」に今すぐにはなれないかもしれないが、この言葉を意識して支援していくことは大切なのかなと思ったので少しずつでも実践していけたらと思っています。

・研修の中で稲垣先生は、福祉と警察の関係性について「警察は社会資源のひとつです」とおっしゃっていました。社会資源という障害者施設や行政の該当部署、支援員等の認識しなかったもので「??」と思いましたが、上手に社会と共生し、生きて行く方法を学んでいけたらとおもいました。

・こだわりを維持していないと溺れるというのは理解しているが、溺れないようにしてきたのかと思うのが本音である

・注意を受けるばかりでは、本人もストレスが溜まると思うので、色々なことを聞いて注意をしたり叱ったりしない人も、一人ないし数人必要なのではないかと思いました。

・依存とは当たり前のことで薬に依存するのは悪いことではないと聞き自分の考えが変わった。

・薬の効果ではなく、そこにあることに安心を得るということは悪いことではなくその人にとっては必要な処置で、薬を飲むことがいけない事というのを変えていかないといけない。

・接し方、関わり方、いい関係性を作っていくことの大切さを学ばせていただきました。

・こだわりについて、抑圧せず、その人がなぜこだわるのか、気持ちに寄り添いながら、支援していければと思います。

・質問の回答の中で、当事者と親御さんの関係も少しあるのではと言っておられたと思いますが、自身のことも含めて考えていきたいと思っています。

・すごく難しい内容でした。実践の中ですごく悩む事例だけれど、その根底はみんな一緒のように感じた。

・支援者はスタッフはこうするものだ、こう考えるのだという枠組みに囚われている。そうではなく、一人の人としての見方で、当事者に対し関わりあうそんな姿勢を、そういう関係の中で考えていくことの必要性を何度もかみしめていました。

いながきせんせいおいそがしいなか ほんとう
稲垣先生お忙しい中、本当にありがとうございました！！

だいさんだん たのしみ
第三弾、楽しみにしております♪

知的障がいをお持ちの方への視覚的構造化について
～誰もがわかりやすい環境作り～

全体研修 2021年9月28日 リモート研修

講師：NPO法人ほわほわの会代表 宮崎充弘氏

2021年9月28日にリモートにて宮崎先生をお招きして、全体研修を開催しました。
日々の支援の考え方や視覚的構造化について、研修の次の日から実践できる内容で大変有意義な
研修の機会となりました。研修に参加された皆様、お疲れさまでした。

知的障がいとは、支援とは、その在り方とは、当事者の思いを支えるとは、その為に私たちは何を考
えどんな準備をしなくてはいけないのか・・・色々な事について、宮崎先生が積み上げて来られたも
のを聞かせて頂き、今まで自分がいかに知っているつもりわかっているつもりで経験則に則って動
いてきたということを実感しました。これからの支援、学びに繋げて行きたいと思いました。

職員同士が互いに助け合い、尊重し合い、認め合うことが、良い環境作りや良い支援に繋がるとい
うことを改めて考えました。メンバーさんに対しても同僚に対しても、その言葉その行動の表面的
に受け取れることのもう一つ踏み込んだ奥にある気持ちに思いを馳せてみると“X”の言葉掛けが減り
良い空気（環境）が出来上がってくる、そして“O”が増えていけば皆がゆうとおんに来るのが楽し
みになってくると感じました。共感の気持ちを持ち、心地良く生活が出来るように心と空間の環境を
整えて行きたいと思えます。まずは『“O”のセンス磨き』から始めます。

事例検討で、今日の研修の話をはじめての説明はとても分かりやすかったです。これからも支援の
仕事をする中で、モデリングや声掛け、間接的な声掛けを意識していきたいです。ご本人の力が発揮
できる環境を作っていけるようにその人に会う支援を心がけていきたいと思いました。

声掛けや周りの状況などが刺激になってしまう方に対して、構造化を行うことで刺激が減って過
しやすくなるというのは理解していましたが、それだけでなく主体的な行動に繋がり、自己肯定感や
意欲が向上し、健康にも繋がるということを知るきっかけになりました。伝わりやすい声掛けのポイ
ントで普段から肯定的な声掛けをするように意識をしていましたが、視覚的に伝えるということでは
していなかったので実践をしてみようと思い、今回の研修を受けて色々とイメージが湧いてきました。

してはいけないことがあれば、してもいいことを提示するという話を聞いて、なるほどなあと思
いました。すぐに提示できればいいのですが、自分がとっさにダメだと伝えてしまう事が多いような気
がしています。また、正しい行動を伝える事は大切だと思いました。この先もこの事を心がけてい
きたいと思えます。

11月にも再度、宮崎先生をお招きしての研修を予定しております。
より良い研修を通して、毎日の支援に生かして行けるようによろしく願います。

ゆうとおん 嘱託医・くるみざわ先生のご紹介です！

★ 職員の相談やメンバーさんのサポートについて一緒に考えて下さっています

2021年5月から嘱託医として働いております、精神科医の胡桃澤伸（くるみざわしん）です。東大阪市に住んでいて、下宿先の大家さんがゆうとおんの宅配を利用してましたので、以前からゆうとおんのものを食べていました。大きなお豆腐のゆうとおんというイメージができあがっています。食事の時に「八尾にゆうとおんというところがあってやな」と大家さんから時々話を聞いていました。ゆうとおんの名前の由来が、関西弁の「なに言うとおん」なのか、英語の「yourtone(あなたの音)」なのかで大家さんと議論したこともあります。そんなこんなで、ゆうとおんに親しみを感じておりまし

たが、まさか自分が働くことになるとは思っていませんでした。

今は隔週の木曜日の午後に出勤して、ゆうとおんに勤務している方々の相談にのったり、ミーティングに参加して利用者さんのケアについて一緒に考えたりしています。精神科医の仕事というのは、口を出し過ぎると害になりますし、遠慮して何も言わないでいるとそもそも役に立たないという難しさがあります。医療と福祉はよく似ているところもありますが、なかなか折り合わないところもあります。ゆうとおんで精神科医として働くのは楽しいことばかりではないと思いますが、なるべく楽しく、そして多少苦しくてもいいから、皆さんのお役にたてるよう力を尽くしたいと思っています。



くるみざわ先生これからもよろしくお願いします



かえ
と
な
お
くり返し問い直す

はたけんじろう
畑健次郎

が
つ
に
ち
わ
い
き
よ
う
と
み
や
こ
9月26日、Yさんと京都まで出かけました。途
中、土橋さんと合流して「平田幸さんを偲ぶ会」
に参加しました。

ひ
ら
た
平田さんは、アイヌ民族としての誇りを支えに
活動してきた人でした。

え
ん
縁あつてゆうとおんは、毎年秋にアイヌ民族との
交流会を持つてきました。

ね
ん
が
つ
2019年の11月(2020年はコロナの影響
で中止)も、平田さんと川村シンリツ・
エオリパツク・アイヌさんとのコンビで歌と踊りを
披露していただきました。

め
ん
ば
ー
あ
い
ぬ
う
た
お
ど
ゆうとおんのメンバーはアイヌの歌と踊りの中に、
自然に溶け込んでいきます。短い交流時間ですが、
にぎやかでゆつたりした空間が生まれます。

わ
い
こ
じ
ん
わ
た
し
Yさんの追悼のことは、故人への敬意と感謝が
込められていました。私なんか、時たま発言を求め
られたらアタフタしてしまつて、まとまりがつきま
せん。Yくんにはいつも感心させられます。

わ
た
し
ここまで私はYくんと書いてきました。

わ
い
か
た
あ
い
ぬ
は
い
く
ん
と
い
う
言
い
方
は
お
か
し
い
の
で
は
な
い
か
と
、
二
人
か
ら
指
摘
さ
れ
た
こ
と
が
あ
り
ま
す
。一
件
目
の
指
摘
は、
も
う
1
4
年
ほ
ど
前
に
な
り
ま
す
。集
ま
り
の
な
か
で、
私
は
い
つ
も
の
よ
う
に「Yくん」と発言してました。

お
お
や
け
「公」の場で、成人の社会人に対してくん呼ばわり
はおかしいのではないか。きちんと相手を尊重して
Yさんというべきではないか」という趣旨の発言で
した。

は
つ
げ
ん
し
や
た
び
だ
ち
発言者は出発(たびだち)のなかまの会の月川さ
んでした。それ以来、私は個人的な付き合いの場
以外では、Yさんと表現するようになりました。

い
つ
も
は
つ
ら
つ
と
し
て
い
て、Yさんのことに対し
ても親身になって取り組んでいた月川さんも、今は
鬼籍に入っています。

い
ま
ひ
と
り
今一人はYさん自身からです。

わ
い
Yさんの住居に行くと、「私のことはYさんと呼ん
でください」という札が目につきます。

わ
い
Yさんに「あんた」と声をかけて、猛烈に抗議を受け
た世話人もいます。

あ
る
時、意を決したように「畑さんは僕のことをY
さんと呼べないの？」と問うてきました。私は、Y

さん
が
弟
さん
の
名
前
を
呼
び
捨
て
に
し
て
い
る
こ
と
も、
作
業
所
の
親
し
い
メ
ン
バ
ー
に「〇〇くん」「△△ちや

ん」と言っていたことも知っています。少し意地悪か
も知れないけれど、「Yくんは、だれに對してもさん
付けで呼んでるの？」と切り返します。自分が慣れ親
しんだ呼び方は変えにくいし、20年も付き合つて
いて、なんで今さらという思いもありました。

し
か
し、当
人
の
希
望
を
無
視
す
る
こ
と
も
で
き
ま
せ
ん。
それ以来、Yさんの前で名前を呼ぶことはなくなっ
ています。

こ
ろ
て
ん
の
う
子ども頃、天皇のことを「てんちゃん」と言っ
て母親に叱られたことがあります。私にはテレビ
に映るヒロヒトさん(昭和天皇)は、ちよつと尊大
なただの老人でしかありませんでした。

か
つ
て
こ
の
人
は「現人神」で、戦争の最高責任者で
した。多くの人が戦争犯罪の責任を問われました。

そ
れ
な
の
に
最
高
責
任
者
が
責
任
を
問
わ
れ
る
こ
と
な
く、
「象徴」になっているのは不可解でした。「戦争

は
い
や
や」とい
う
母
親
が、「天皇陛下」とへりくだつ
て言うのはますます不可解でした。

ち
ゅう
が
く
せ
い
中
学
生
に
な
つ
た
か
ど
う
か
と
い
う
ぐ
ら
い
の
年
齢
だ
つ
た
子
ど
も
の
私
で
も、こ
の
社
会
は
不
公
平
だ
と
い
う
こ
と
は
何
と
な
く
わ
か
つ
て
き
ま
す。

そ
れ
で
な
く
て
も
周
り
に
は、勉
強
の
で
き
る
や
つ、運
動
が
得
意
な
や
つ、面
白
く
て
人
気
の
あ
る
や
つ
が
た
く
さ
ん
い
ま
す。そ
し
て
悔
しい
こ
と
に、自
分
よ
り
ず
つ
と
人
が
良
く
て
気
の
い
い
や
つ
も
い
ま
す。そ
れ
だ
け
で
も
十
分
プ
レ
ッ
シ
ャー
な
の
に、な
ん
で
こ
れ
以
上、特
別
扱
い
の
人
間
が
必
要
な
か
と
思
い
ま
し
た。勉
強
嫌
い
で
ち
よ
つ
と
ひ
が
み
つ
ぽ
い
少
年
は、社
会
と
い
う
も
の
に
目
を
向
け
だ
す
こ
と
に
な
り
ま
す。

が
っ
と
う
学
校
で
は「差別はあかん」「人を分け隔てしてはい
けない」と教えられました。

よ
な
か
世
の
中
で
は「美智子さん」が、ある日を境に「美
智子さま」に一変します。そして「眞子さま」があ
る日から、一斉に「眞子さん」になります。

現在、マスコミ関係者は、判で押したように「眞子さま」と口にし、活字にしています。

そこでは表現者としての個人の判断は回避されています。いや儀礼的にそう呼んでいるだけで、個人としての信条は別だという人もいるでしょうが、人間の意識はそううまくできていません。

「慣れることは慣らされること」です。とりあえずの大人としての方便は、社会の同調圧力を強め、何より子どもたちの意識形成に影響を与えます。「天皇陛下万歳」のお国柄は、今も脈々と受け継がれています。

10月3日の日曜日、朝のニュース番組を観ていました。個人的にどう思っているのか知る由もありませんが、自分の立場と飯の食い扶持のために、司会者は「眞子さま」と口にします。

それを受けた女性のコメンテーターが、さりげなく「眞子さん」と言っていました。

「眞子さん」や「眞子ちゃん」を許容できる社会でありますようにと願います。

ゆうとおんでは名前の呼び方について、くり返し議論してきています。私も同じようなことを何度も言ってきました。

知り合った時期や場所、その人の年齢や印象、個別の関係や距離感、そうした要素から、私たちはある時は意識的に、ある時は何となく相手に対する呼び方を選択しています。

福祉の世界ではありますが、障害当事者に対

して親しみを込めているつもりで呼び捨てにしたり、ちゃん付けにしたりしている場面によくでくわします。知り合って間もないはずなのに、旧知の間柄のような口の利き方に違和感を覚えることもたびたびです。自分より年上の当事者に対して、幼児に接するがごとくの対応を見るに及んでは、違和感を通り越してあきれます。同時代を生きた同じ社会人としての意識と想像力が、希薄すぎると思うことがしばしばです。

ゆうとおんでの話し合いの蓄積の結果としては、基本的にはさん付けが妥当だと意見が多くありました。社会人として互いを認め合うという形式としては一定の有効性があると思います。

形式は、それが日常化されると個人の意識にも浸透していきます。今後、そのプラス面に着目して、呼び方をルール化しようという動きが出てきても不思議ではありません。現にゆうとおんでは、基本的にはさん付けという指針を出しています。

しかし、こうした方がいいのではないかという提案と、それを集団の約束事としてルール化するのでは訳が違います。ルール化した方が、「正しさ」は浸透するかも知れませんが、「正しさ」ばかりの世界は窮屈です。

ほとんど直感だけで生きてきた私のような人間が言うのもおかしいかも知れませんが、自分で考える感じることを放棄したとき、空虚な「正しさ」の世界にからめとられてしまいます。そして単一の尺度に

よる「異端者狩り」が始まります。

異端者狩りの申し子のような安倍さん、菅さんに代わって、「聞く力」を標榜する首相が誕生しました。

安倍さんの無責任な国会答弁に端を発した財務省の公文書改ざんは、近畿財務局の赤木職員を自殺に追いやりました。赤木さんの妻は夫を自殺に追い込んだ真相を明らかにするために、公文書改ざんに至る経緯を再調査してほしいと、岸田さんに手紙を出しました。改ざんを指示した佐川さんのお咎めなしで出世し、改ざんに抵抗した赤木さんが自殺せざるを得ないような理不尽なことがやりすごされていはいはずがありません。

岸田さんの「聞く力」がどの程度なのか、この通信が出るころには明らかになっていると思います。

さて、名前の呼び方ですが、私個人としては職員の自律的な判断に期待したいと思っています。障害当事者に対して、対等の人格を持つ社会人として向き合うという姿勢が乏しければ、リスクが大きくなるという危険と隣り合わせではありませんが。

それでも、人間関係をこれが「正しい」とマニユアル化し、ルール化するよりはいいかと思えます。

Yさんへの回答は、まだ見つかりません。



ビオトープだより



さつまいもの収穫を、
しました！！

ことし
今年もたくさん、
しゅうかく
収穫できました。



リレーエッセイ NO.8

突然、桃井さんにリレーエッセイのことを伝えられ困惑しており、何を書けばいいか色々
迷いましたが、ガイドヘルパーのことを書こうと思います。

私はゆうとおんに入社する前からガイドヘルパーの資格を取得したいと考えていました。理
由は、施設外でも当事者の方と関わり、サポートしていきたい、ガイドを楽しんでもらいた
い一緒に楽しみたいとの思いからです。この1年なかなか研修に行けない日々が続きまし
たが、ついに今年9月19日、26日と研修に参加する事ができました。コロナウイルスの影響で
受け入れてくれる施設が少なく、実地研修が年内に終わらない可能性が高いと聞き、少し落胆
したと同時に自分の学ぶ時間が増えたのではないかと前向きにとらえるようにしようという
考えに至りました。

ガイドヘルパーの資格を取得できたら、仕事は週1回ほどにしようと思っていますが、その場
で当事者の方のうーぶ等の作業所とは違う顔が見られるのではないかと今から楽しみにし
ています。

次のリレーエッセイの担当者は誰なのか、どんなテーマで話してくれるのか楽しみです。

とみもりまさき
富森政輝

社会福祉法人 ゆうとおん

本 部 / 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
ゆうとおんはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
ゆうとおんうーぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
ゆうとおんほーぷ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
スタコラハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
年会費 / 1口 2,000円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階 定 価 / 50 円